

## 「クルスの印象-メキシコ・今に残るチチメカ-」

### 新宿コニカプラザ 東ギャラリー

写真家としての私のテーマは「人」です。「自分らしく生きている人々」です。それを追究すると、文化面でどうしても過去の祖先が顔をだします。私の第2の母国であるメキシコのケレタロという地域は、征服者スペイン人と先住民が共生した珍しい地域でした。

ここで、独立記念日数日前から今も開かれる「クルスの祭」。キリスト教の教会を囲んで数日間踊り続ける彼等の格好は、キリスト教文化のものではありません。チチメカ文化のものであります。そして踊っている彼等は、純血スペイン人でもなく、純血先住民でもありません。両者の間の混血メスティーソです。この複雑さそのものが彼等自身であり、それを目にする事ができるのがこの「クルスの祭」でした。

この祭での彼等の顔は、皆誇り高く生き生きとしたものでした。誰もが皆「自分らしく」そこにいました。「自分らしく」いられたこの場の彼等は、彼等なりに幸せであったのではないかと私は考えます。はたして我々日本人は、借りものではない「自分らしい瞬間」をどれぐらい過ごせているでしょうか？

2001年6月 荻野NAO之